

(様式3)

|       |   |
|-------|---|
| 学校名   | 秋田県横手市立朝倉小学校  |
| 学校の特徴 | 児童数455名。(平成20年、3月21日現在)学級数16。本校は、昭和58年に杉沢小学校と統合し、現在の場所に新校舎を建築した。平成9年には北部学区として横手北小学校と朝倉小学校が1校となり、それぞれのよさと地域性を生かしながら、創立以来132年の歴史を刻んできている。 |

## 1. 研究の概要

(1) 研究主題 「わかった、できた」「もっと知りたいな」というつぶやきを求めて

－ 書くことを通し、確かな学力を育てる －

(2) 研究主題設定のねらい

学習活動における「書くこと」は、言葉をつかいながら考える能動的な学習の姿ととらえることができる。「書くこと」のねらいをはっきりともち、単元及び授業にしっかりと位置付けた学習指導の実践は学力向上に向けた授業改善の一視点となると考え、本主題を設定した。

(3) 研究の重点

① 一人一人が自分の考えをもち、より深めさせることができる授業づくり

国語科では、「思いや考えをよりよく伝えようとする意欲や表現力を高めること」を、算数科・理科・社会科では、「書くことによる学びを生かしながら、考える力を育てること」を目指し、書くことの位置付けを明確にした教科部経営計画を立てた。授業づくりにおいては、五つの学習過程（ふれる・つかむ・やってみる・学び合う・振り返る）ごとに目指す姿や子どもの思考の状態について共通理解した。また、「書くことの学び」を6点に整理し、学習活動の中の位置付けを明確にした授業実践により、思考を深めさせることを目指した。

② 学ぶ意欲の向上につながる環境づくり

小・中及び家庭との連携をより密にし、子どもの学習・生活環境の改善を目指した。中学校と推進委員会や全体会、学力向上部会などを開催し、情報交換や今後の指導の重点などについて話し合った。また、それぞれの授業研究会に参加したり、9年間の指導計画を共同で作成したりして、指導の系統についての共通理解を図った。保護者向けには、中学校と連携して作成した「かけはし」（学習・生活習慣の形成を目指した家庭用指導資料）を資料として、学習面・生活面・健康面でぜひ身に付けさせておきたいことや、家庭学習での内容や時間のめやすなどを伝えた。

③ 意欲的な校内研究のための組織づくり

自分の所属する教科部だけでなく、国語・算数・理科・社会の四つの研究教科の授業改善を目指し、学団部・教科経営部など参加体制を変えながら校内研究会を行った。また、情報の共有と必要性を感じながらの研究を進めることができることを目指し、研究推進部を授業研究部、調査研究部、習慣形成部、小・中・家庭連携部に分け、全員が各研究推進部に所属し、具体的な活動内容を計画・実施した。

## 2. 成果

(1) 「考える力を育てる」ことを目標として研究を進めてきた結果、自分の考えをもち、その考

えを言葉や絵・図・記号などを使って表すことができるようになってきた。

- (2) 基礎的な学習内容の定着が見られた。
- (3) 相手に伝えようとしたり、より分かりやすく表そうとする意欲が見られるようになり、学習意欲の高まりにつながった。

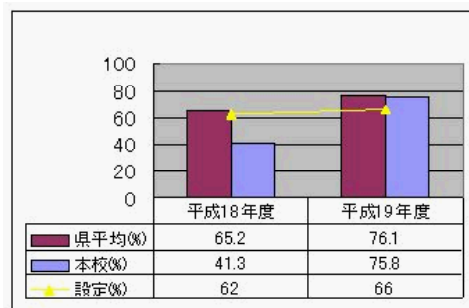
### 3. 成果についての検証

- (1) ノート、ワークシートから見とることができる抽出児童の変容から

課題に対する自分の考えをしっかりともち、自分の考えを絵や図、言葉で表現しながら、さらに思考を広げたり、深めたりすることができるようになってきていることが分かった。また、相手に伝えようとする意欲やより分かりやすく表そうとする意欲が高まっていることが分かった。

- (2) 県学習状況調査結果（観点別経年比較）から

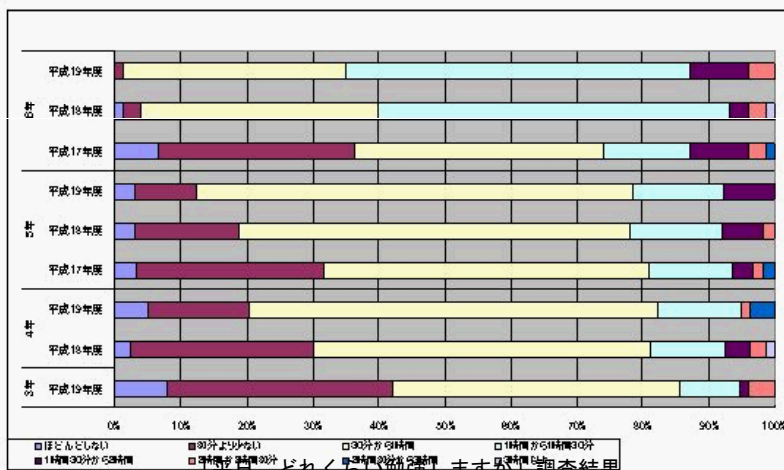
「思考力」の観点での経年比較から、5年生理科「科学的な思考」、6年生算数「数学的な考え方」、理科「科学的な思考」において大きく向上していることが分かった。国語「書くこと」においては、5・6年生ともに昨年度より通過率が高くなり、「書くこと」の力が向上していることが分かった。



算数「数学的な考え方」(現6年生)

- (3) 生活意識調査の3年間の比較から

「学校が好き」「勉強が大切」「勉強すればよい成績がとれる」「分からないことでも答えを見つけられる」「よい成績をとれるよう勉強したい」「勉強が分かる」などの項目において、ほとんどの学年で肯定的な答えの割合が増えており、学習意欲が向上しているととらえることができた。



### 4. 課題とその改善

- 子どもたちが書く・話す内容を、より深くよりくわしく言葉で表現できるような授業づくりが必要である。学び合う場面で、友達の考えや表現のよさに気付かせ、全体に「広げ」「深め」られるような具体的な手立てを、各教科で検討しなければならない。
- 通過率が高いのに「授業が楽しい・勉強が好き」と感じている子どもの割合が少ない学年があった。子どもたちの興味・関心をひくような課題設定や、学習成果を実際の生活で活用してみる場面の設定、実態に合わせた課題の難易度の設定などの工夫を手がかりとし、学習に対する意欲をより高めるための授業づくりが課題である。
- 「勉強時間・読書時間・テレビ視聴時間・睡眠時間・あいさつ」などの3年間の生活意識調査結果を、保護者に伝え、子どもを取り巻く環境全体の一層の改善を目指す必要がある。